

水辺のまちづくりの新しい一步 e—よこ会からβ本町橋へ

東横堀川水辺再生協議会（通称・「よこ会」）事務局長

廣井 真由美

偶然見つけたまちづくりイベントに参加したのをきっかけに、東横堀川水辺再生協議会（通称・e—よこ会）に関わるようになり、いろんな人と出会いを感じたことや、そこで出会った仲間と始めることがになった。新たな水辺の拠点『β本町橋』のことを話したいと思います。

東横堀川沿いのまちづくり団体『e—よこ会』との出会い

活動エリアの中心である東横堀川は、1585年に秀吉の命を受けて大坂城の西の惣構として開削された、

江戸時代、川の東側は大阪城を守る武土のまち、川の西側はいわゆる船場町人のまちでした。今橋の西詰には両替商などの大店が立ち並び、高麗橋には三井越後屋（現在の三越百貨店）があり、京街道や中国街道などの起点となっていました。現在も町会や小学校区は川を境に東西で分かれています。



東横堀川（右側は工事中の船着き場）

私は2004年頃、この界隈の北浜で働いていました。当時は高速道路の高架下の薄暗い川という印象しかなく、まさかこの地で自分がまちづくりに関わるとは想像もしていませんでした。月日は流れ、4年後の2008年。偶然友人に誘われ、とあるまち歩きのイベントに参加し、まちと人をつなげる“まちづくり”という世界を知りました。両親の仕事を都合で6度転校したせいか、白

偶然見つけたのが、かつて働いた西詰の人々との懐かしい思い出です。土佐堀川と道頓堀を南北につなぐ約2・2kmの川の殆どが阪神高速道路に覆われているため、地図にもほぼ表記がありません。

西詰には両替商などの大店が立ち並び、高麗橋には三井越後屋（現在の三越百貨店）があり、京街道や中国街道などの起点となっていました。現在も町会や小学校区は川を境に東西で分かれています。

私は2004年頃、この界隈の北浜で働いていました。当時は高速道路の高架下の薄暗い川という印象しかなく、まさかこの地で自分がまちづくりに関わるとは想像もしていませんでした。月日は流れ、4年後の2008年。偶然友人に誘われ、とあるまち歩きのイベントに参加し、まちと人をつなげる“まちづくり”という世界を知りました。両親の仕事を都合で6度転校したせいか、白

偶然見つけたのが、かつて働いた西詰の人々との懐かしい思い出です。土佐堀川と道頓堀を南北につなぐ約2・2kmの川の殆どが阪神高速道路に覆われているため、地図にもほぼ表記がありません。

西詰には両替商などの大店が立ち並び、高麗橋には三井越後屋（現在の三越百貨店）があり、京街道や中国街道などの起点となっていました。現在も町会や小学校区は川を境に東西で分かれています。

私は2004年頃、この界隈の北浜で働いていました。当時は高速道路の高架下の薄暗い川という印象しかなく、まさかこの地で自分がまちづくりに関わるとは想像もしていませんでした。月日は流れ、4年後の2008年。偶然友人に誘われ、とあるまち歩きのイベントに参加し、まちと人をつなげる“まちづくり”という世界を知りました。両親の仕事を都合で6度転校したせいか、白

の住むまちや働くまちのことを深く考えたことがなかった私にとって、客観的に“まちを知る”こと、そしてまちづくりに関わる人々の、得意を活かし、楽しみながら横のつながりを持った世界をとても新鮮に感じました。自分もそんな世界を広げたい

と、まちづくりのイベントを探し、偶然見つけたのが、かつて働いた西詰の人々との懐かしい思い出です。土佐堀川と道頓堀を南北につなぐ約2・2kmの川の殆どが阪神高速道路に覆われているため、地図にもほぼ表記がありません。

私は2004年頃、この界隈の北浜で働いていました。当時は高速道路の高架下の薄暗い川という印象しかなく、まさかこの地で自分がまちづくりに関わるとは想像もしていませんでした。月日は流れ、4年後の2008年。偶然友人に誘われ、とあるまち歩きのイベントに参加し、まちと人をつなげる“まちづくり”という世界を知りました。両親の仕事を都合で6度転校したせいか、白



お掃除コミュニケーションを考えるグリーンバードの取組みの視察

かつたので、出会った人に“声を掛けること”を大切にしています。

e—よこ会の掃除やイベントがきっかけとなり、このまちで“挨拶”ができる人が増えていくこと。“通るだけのまち”から“挨拶する人がいるまち”へ。人とのつながりが実感できるまちって素敵ですよね。

・防災のことを学んだ「淀川管内河川レンジャー」

・東横堀川の研究をされている土木学会関西支部の委員会の皆さん等々。

いろんなご縁は、広い視野を持ち、まちづくりを考えるきっかけになり、他団体を知ることで、e—よこ会のフラットな関係性の良さに気づきました。これからもe—よこ会しさを大切にしたいと思います。

いわゆるまちづくりへ
東横堀川を挟んだ東西のひと・まちをつなぐこと、そして界隈に増えてきたマンションに住む新住民と古くからの住民の交流の橋渡しを行うことが、e—よこ会の目的です。

2006年の設立時から、活動範囲は東横堀川の北半分、葭屋橋～農人橋の両岸でしたが、今後の大坂市の護岸改修と公園整備に合わせ、東横堀川全域がつながり、さらに道頓堀から水の回廊全体が一体となるような活動ができたらと思っています。

そんな夢の方、15年の地域活動を見て、まちづくりにおける課題も見えてきました。今の任意団体型の取組みでは、どうしても人材の持続



2021年夏にOPEN予定の新しい水辺の拠点「β本町橋」

性に限界があります。新しくまちに関わる人や多様な属性の人々を発見し結びつけながら、より広い参加や関わりを生み出し、それを持続的な活動として“事業”としていくこと。そしてもっと地域の実情に即した、エアマネジメントに展開していくような活動を主体的に行いたい。そんな夢を実現するための新しい水辺の拠点「β本町橋」を2021年夏に立ち上げます。

「(一社)水辺ラボ」が、SUPや船など、水辺アクティビティを日常的に楽しむことができ、まちの魅力に出会うことができる場として20年間運営します。

今まで行ってきた、まちと人をつなげる取組みが、「β本町橋」で更に広がり、ここからたくさんの発見や喜びを伝えたいと思います。

偶然見つけたまちづくりイベントに参加したのをきっかけに、東横堀川水辺再生協議会（通称・e—よこ会）に関わるようになり、いろんな人と出会いを感じたことや、そこで出会った仲間と始めることがになった。新たな水辺の拠点「β本町橋」のことを話したいと思います。

東横堀川沿いのまちづくり団体『e—よこ会』との出会い

活動エリアの中心である東横堀川は、1585年に秀吉の命を受けて大坂城の西の惣構として開削された、

大阪市で最も古い歴史を持つ堀川です。土佐堀川と道頓堀を南北につなぐ約2・2kmの川の殆どが阪神高速道路に覆われているため、地図にもほぼ表記がありません。

西詰には両替商などの大店が立ち並び、高麗橋には三井越後屋（現在の三越百貨店）があり、京街道や中国街道などの起点となっていました。現在も町会や小学校区は川を境に東西で分かれています。

私は2004年頃、この界隈の北浜で働いていました。当時は高速道路の高架下の薄暗い川という印象しかなく、まさかこの地で自分がまちづくりに関わるとは想像もしていませんでした。月日は流れ、4年後の2008年。偶然友人に誘われ、とあるまち歩きのイベントに参加し、まちと人をつなげる“まちづくり”という世界を知りました。両親の仕事を都合で6度転校したせいか、白

い水辺の新しい創造拠点です。e—よこ会メンバーが中心となり設立した